

校長室から 「11月、躍動西高、歴史を積み重ねて頑張っています！」

佐賀県立唐津西高等学校 校長 副島一春

季節は巡り、早くも「霜月」11月を迎えました。猛暑続きの夏でしたが、秋の深まりは早く、すでに冬の装いをすべく、日に日に寒さが募っています。唐津の街中からは2日～4日の唐津くんちを間近に控えて囃子を稽古する笛や鉦の音が、夜寒の冷気の中に冴えわたっています。そんな中、西高生は熱く燃えています。10月初旬に開催された今年の「おいでませ！山口国体」では、セーリング少年女子シーホッパー級で1年生多田緑さん（第五中出身）が優勝、セーリング少年男子シーホッパー級で1年生岡田奎樹さん（碩田中出身）が準優勝、ボート少年女子ダブルスカルで3年生下尾裕子さん（第五中出身）が準優勝を成し遂げました。一方、文化部では理科部2年生鳥越大平さん（佐志中出身）が平成23年度佐賀県児童生徒理科作品展で「色素増感型太陽電池の追求」の研究で第1席の佐賀県知事賞を受賞しました。また、勉強のほうでもそれぞれの生徒が進路実現に向けて頑張っています。特に3年生は毎週末ごとの模擬試験で、自己の可能性に挑んでいるところです。5月から始めた3年生全員との校長面談が、ようやく先月半ばで終わりましたが、「西高に来てどうでしたか？」という問いに異口同音「先生方が熱心に学習指導をしてくれて、進路実現へのチャレンジが楽しかったです」と答えてくれたことが、とても嬉しかったです。今年の西高の合言葉は「師弟同行」ですが、職員の指導と、生徒の熱意と、保護者や同窓生の方の応援がうまく絡み合って、今述べた生徒の言葉を引き出していると感じます。今に安堵することなく、「前進」を心にかけあと5か月を頑張りたいと思います。

校内点描



山口国体優勝（ヨット部）



山口国体準優勝（ボート部）



登校坂一帯甘い香りの金木犀

◆◆◆◆ 特集：「有礼坂」について ◆◆◆◆

あれは確か5月21日に東京で開催された「まつら同窓会関東支部総会」の時に、坊主町にあった旧校舎（明治41年～昭和54年）の思い出を同窓生の方からお聞きしたことが始まりでした。「ユレイ坂」を通って通学していたが、学校が近づくときシャーンとなった、そういう話でした。「幽霊坂!？」と勘違いし、一体どういう坂だったんだろうかと、随分気に懸っていましたが、そのあとのいろいろな会合で同窓生の方からその由来やあった場所の情報などをお聞きしました。昭和58年発行の雑誌『末慮国』第81号には次のような説明があります。「西の門横小路：城内西側の石垣にそうした小路で、中級武士の屋敷が多かった。この小路から坊主町への坂道を有礼坂と言うがここには藩政期には道はなく、明治期になって造られている。当時この小路に学塾があり、この塾生が、この坂にさしかかる時衣服をただしたので有礼坂と呼ぶようになったとも伝えるが、淋しく薄暗い坂道なので、幽霊坂の異名さえる。」9月の終わりに、実際その場所を訪れました。ものの100メートルもない坂ですが、多くの唐津高等女学校や唐津西高校のOBの方が、青春の喜怒哀楽を語らいながら通われたと想像するだけで、西高の歴史の重みを感じ、年代を経ても変わらぬ青春群像を垣間見たひと時でした。



▲現在の「有礼坂」坊主町郵便局から東へ上る坂道

◀地図上部の真ん中の←←←が坂全部（車は一方通行）